

後期授業のオンライン実施について

【ご意見・ご要望】（投稿日：2020年7月12日）

後期授業のオンライン実施について要望させていただきたく、ご連絡いたしました。

前期期間中オンライン授業を受講し、様々なメリットを感じました。

- ・大学までの通学時間がかからなくなり、学習時間が大幅に増加した
- ・授業アーカイブ動画を残してくださる先生が多く、何度でも繰り返し復習できる
- ・授業の出席率や参加者数が大きく向上している
- ・暗記の量を問うような試験ではなく、様々な文献を調べ、深く思考することを求めるレポート課題に多く取り組んでいる

特に、これまで朝夕の往復4時間かかっていた通学時間削減に利点を感じており、1週間あたり20時間、実際に学習時間が増加しています。

インターネット上では他大学の方が対面授業を望んでいるツイートを目にしましたし、もちろん実習のある授業などオンラインでは難しい科目も学部によってはあるかと思えます。

しかし、居住している地域から府県をまたいでの長時間移動、それが通勤退勤ラッシュの時間帯であることに怖さがあります。

そして何よりも感染者数の多い地域から大学にウイルスを持ち込み、対面が必要な科目の実施や実験設備を使用する研究室の方の活動さえも困難にしてしまう可能性を危惧しています。

また私の受講している研究科の授業では、資料の配布もスムーズに行われ、課題の量も授業理解に適切な量であると感じます。

これまでにはなかった課題へのフィードバックといったサポートも多くの授業で行われ、学びの質の低下は感じられません。

正課の授業の対面での実施再開は、府県をまたいでの移動や教室での密集を『大学が学生に求める』ことになると考えます。

オンライン授業に上述のようなメリットがあるにも関わらず、学習のために不要なリスクを負って通学するべきでしょうか。

そもそも、これまでの対面授業の出席率は今期のオンラインと比べてそれほど高いものだったでしょうか。授業後に教室に残って議論を行う学生はどれほどいたでしょうか。

たとえば質問や議論は、オンライン授業内でも発生していますし、授業外のオンラインでの議論も可能であり、対面が絶対的に必要である理由にはあたらないと存じます。（繰り返しになりますが、学生同士の授業外の議論の時間も、通学時間削減により増加しています）

前期と同様にオンライン授業を実施し、同時に大学設備を開放して、希望する学生は先生が配信を行う場に同時刻に赴いて授業を受け、授業後に先生や集まった学生とその場で議論できるようにするなど、オンラインと対面を組み合わせた方法も可能ではないでしょうか。

京都大学では他府県の実家から通学する学生が少数派であることは理解していますが、少数派の学生へのご配慮をいただきたく存じます。

どうか対面必須の授業とオンラインで十分に実施できる授業を同列に扱うことなく、またオンラインか対面かの二者択一で論じられることなく、後期のオンライン授業の実施に柔軟なご対応、前向きなご検討を何卒お願い申し上げます。

【回答】（回答日：2020年8月5日）

（回答者：教育推進・学生支援部教務企画課）

率直なご意見ありがとうございます。ご意見のとおり、オンライン授業と対面授業を組み合わせた方法を検討してまいります。

なお、決定事項ではありませんので、正式に決まりましたら改めて通知いたします。

また、オンライン授業については、サーバーがダウンしたこと、学生のネット環境が不十分であること等、問題点はございますが、引き続き安定したオンライン授業を提供できるよう改善いたします。